

オフラインチェックツール

操作・設定マニュアル

国土交通省関東地方整備局

—目次—

1.	インストールと事前準備	- 1 -
1.1.	ツール概要	- 1 -
1.2.	動作環境	- 1 -
1.3.	ツールインストール	- 1 -
1.4.	辞書ファイル（定義ファイル）の更新	- 1 -
1.5.	アンインストール	- 1 -
2.	各画面と機能	- 2 -
2.1.	画面遷移	- 2 -
2.2.	各画面と機能	- 3 -
3.	操作方法	- 6 -
3.1.	データセットのフォルダ構成	- 6 -
3.2.	エラーチェック	- 7 -



1. インストールと事前準備

1.1. ツール概要

「オフラインチェックツール」は、登録エラーの発生を防止するため、データ提供者が TBEIC へデータを提出する前にデータエラーをチェックするためのツールです。

ツールでは、以下の 2 通りの方法でチェック処理を実行することが可能です。

- ・ Windows のタスクスケジューリングにツールを登録してバックグラウンドで定期的に行
- ・ 画面を表示して、手動でチェックを実行（画面からタスク登録をすることが可能）

1.2. 動作環境

- ・ .NET Framework3.5 が有効であること。（Windows7 では標準で搭載）

1.3. ツールインストール

1) 管理者権限のあるユーザにて、インストーラーを実行し、セットアップウィザードの指示に従い、任意の場所にインストールします。

別バージョンのツールをインストールする場合は、一旦既存のツールをアンインストールしてから、再度インストーラーにてインストールします。

1.4. 辞書ファイル（定義ファイル）の更新

1) http://www.tbeic.go.jp/ch/CHManual/CH_pro.html から、辞書ファイルをダウンロードします

2) ダウンロードしたファイルを、インストール先のフォルダにある実データ類義語辞書ファイル (OfflineChecker¥SynonymDictionary.txt) と差し替えます。

1.5. アンインストール

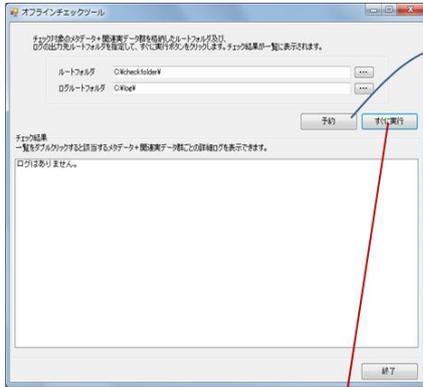
管理者権限のあるユーザにて、インストーラーを実行し、セットアップウィザードの指示に従い、ツールを削除します。

アンインストール後、インストール先に「TBEIC_オフラインチェックツール」フォルダが残っている場合は、フォルダを手動で削除します。

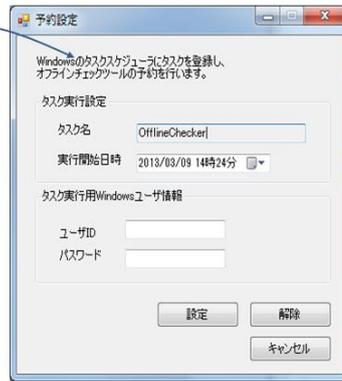
2. 各画面と機能

2.1. 画面遷移

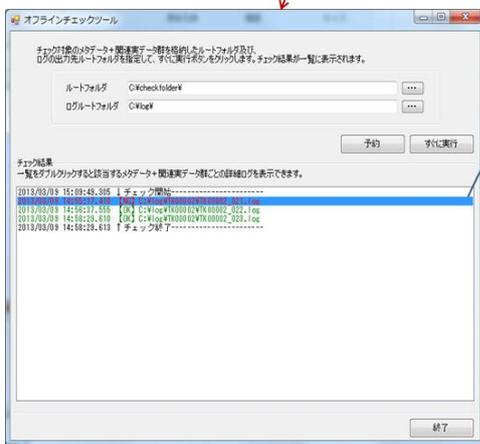
①メイン画面



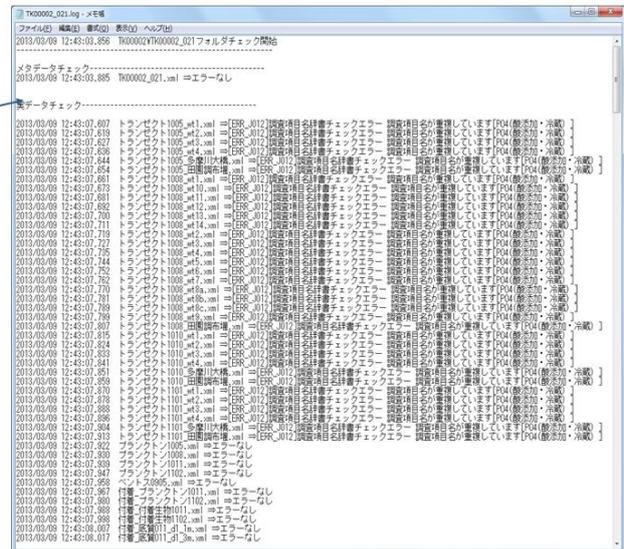
②予約設定画面



③進捗表示ダイアログ



メイン画面 (チェック終了後、結果が表示される)

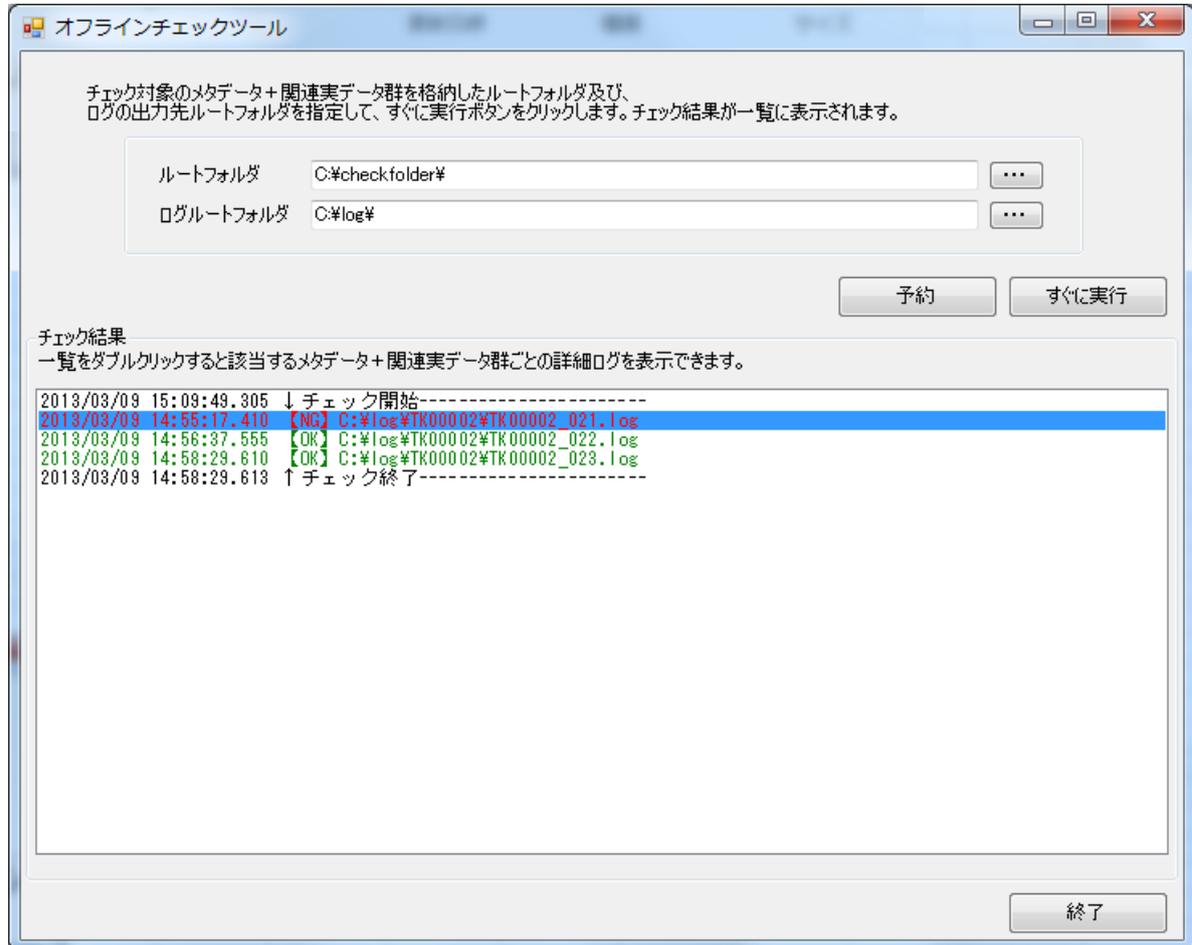


④ログ表示

2.2. 各画面と機能

①メイン画面

ツール起動後に表示される画面で、エラーチェックに関連するフォルダの設定、エラーチェックの実行を行う画面です。

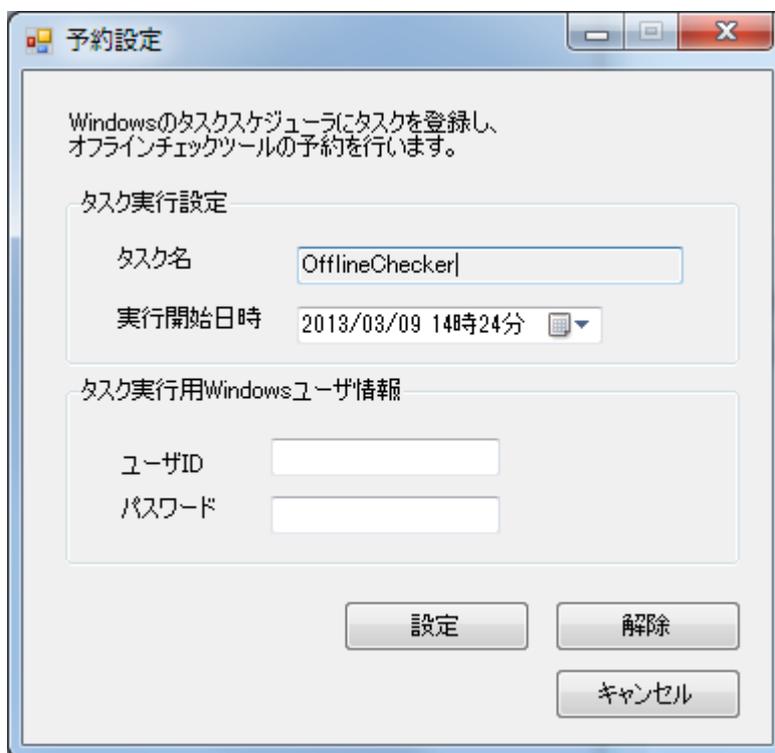


No	項目名	役割
1	ルートフォルダ	チェックするデータの格納先を指定します。 「...」ボタンをクリックすることで、フォルダをエクスプローラ形式でフォルダを指定できます。
2	ログフォルダ	チェック結果ログを出力するフォルダを指定します。 「...」ボタンをクリックすることで、フォルダをエクスプローラ形式でフォルダを指定できます。
3	予約	②予約設定画面を開きます。
4	すぐに実行	直ちにエラーチェックを実施します。
4	チェック結果	直前に実行したエラーチェックの結果が表示されます。結果は(※)データセット毎に表示され、エラーが有るデータは赤文字表記、エラーが無いデータは緑文字表記となります。 また、チェック結果の行をクリックすることでログを表示します。
5	終了	ウィンドウを閉じ、オフラインチェックツールを終了します。

※データセットとは、「ある1つのメタデータとそれに紐付く実データ全て」を指します。

②予約設定画面

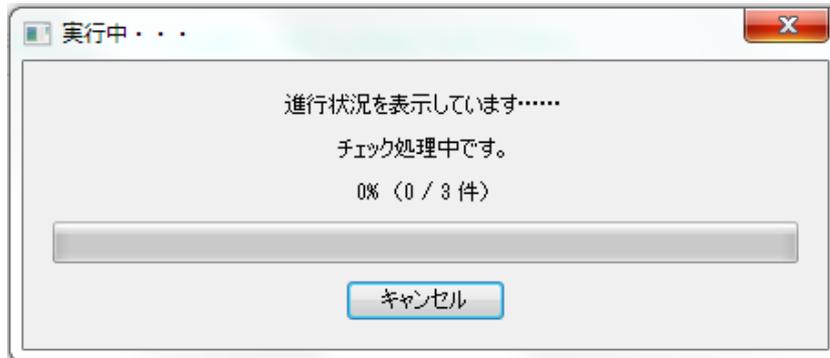
Windows 標準のタスクスケジューラを使用し、指定した日時にエラーチェックを自動で開始するための設定を行う画面です。



No	項目名	役割
1	タスク名	Windows 標準のタスクスケジューラに登録する際の名前です。 ※タスク名は“OfflineChecker”固定であり、変更はできません。
2	実行開始日時	エラーチェックを実行する日時を指定します。 テキスト横のカレンダーアイコンをクリックするとカレンダーから年月日を選択できます。
3	ユーザ ID	エラーチェックを実行する Windows ユーザ名を指定します。
4	パスワード	上記ユーザのログインパスワードを指定します。
5	設定	エラーチェック処理をタスク登録します。 既にタスクが設定してある場合、そのタスクを解除した後設定します。
6	解除	設定してある予約を解除します。
7	キャンセル	画面を閉じ、メイン画面に戻ります。

③進捗表示ダイアログ

すぐにエラーチェック時に、チェック状況の進捗を表示します。



No	項目名	役割
1	進捗表示	現在のチェック進捗を“%”と“処理完了データセット数/全データセット数”で表示します。
2	進捗バー	進捗の割合をバーで表示します。 緑色部分：完了 灰色部分：未完了
3	キャンセル	エラーチェックをキャンセルします。

④ログ表示

メイン画面のチェック結果に表示されているチェック結果をメモ帳で表示します。

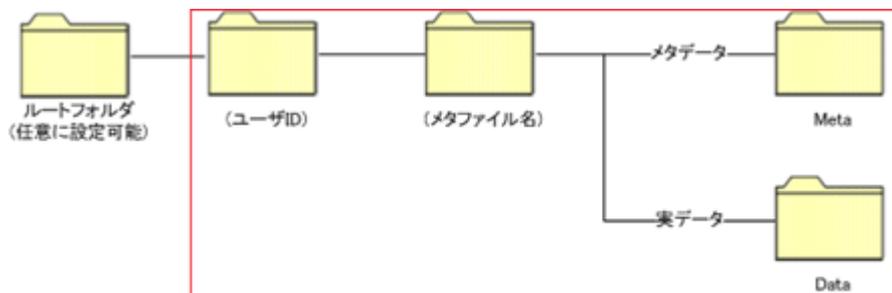


No	項目名	役割
1	開始表示	1行目に開始日時とチェック対象データセットを表示します。
2	メタデータチェック結果	メタデータのチェック結果を表示します。
3	実データチェック結果	実データのチェック結果をxmlファイル毎に表示します。
4	終了表示	最終行に終了日時とチェックデータセットを表示します。

3. 操作方法

3.1. データセットのフォルダ構成

本ツールを使用するには、下記のフォルダ構成でデータを格納する必要があります。

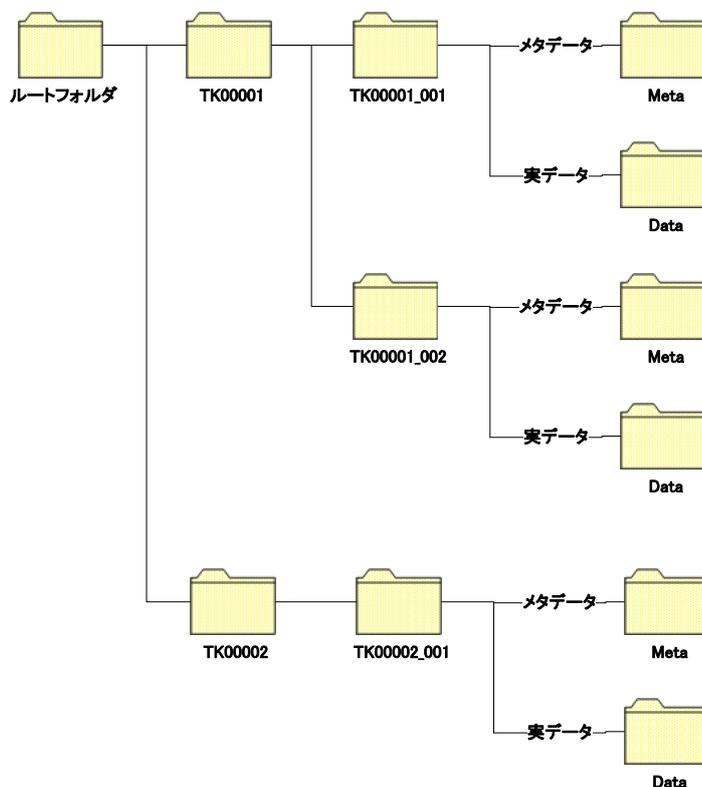


No	項目	役割
1	(ユーザ ID)	TBEIC のユーザ ID 名のフォルダを作成します。 ※ユーザ ID とは、TBEIC に登録した際にシステムから割当られる TK+数字 5 桁の番号です (例: TK00001)。
2	(メタファイル名)	メタデータファイル名を入力します (例: TK00001_001)。
3	Meta	メタデータを格納します。
4	Data	実データを格納します。

※発注事業のメタデータファイル名は、受注時に発注者から通知されます。

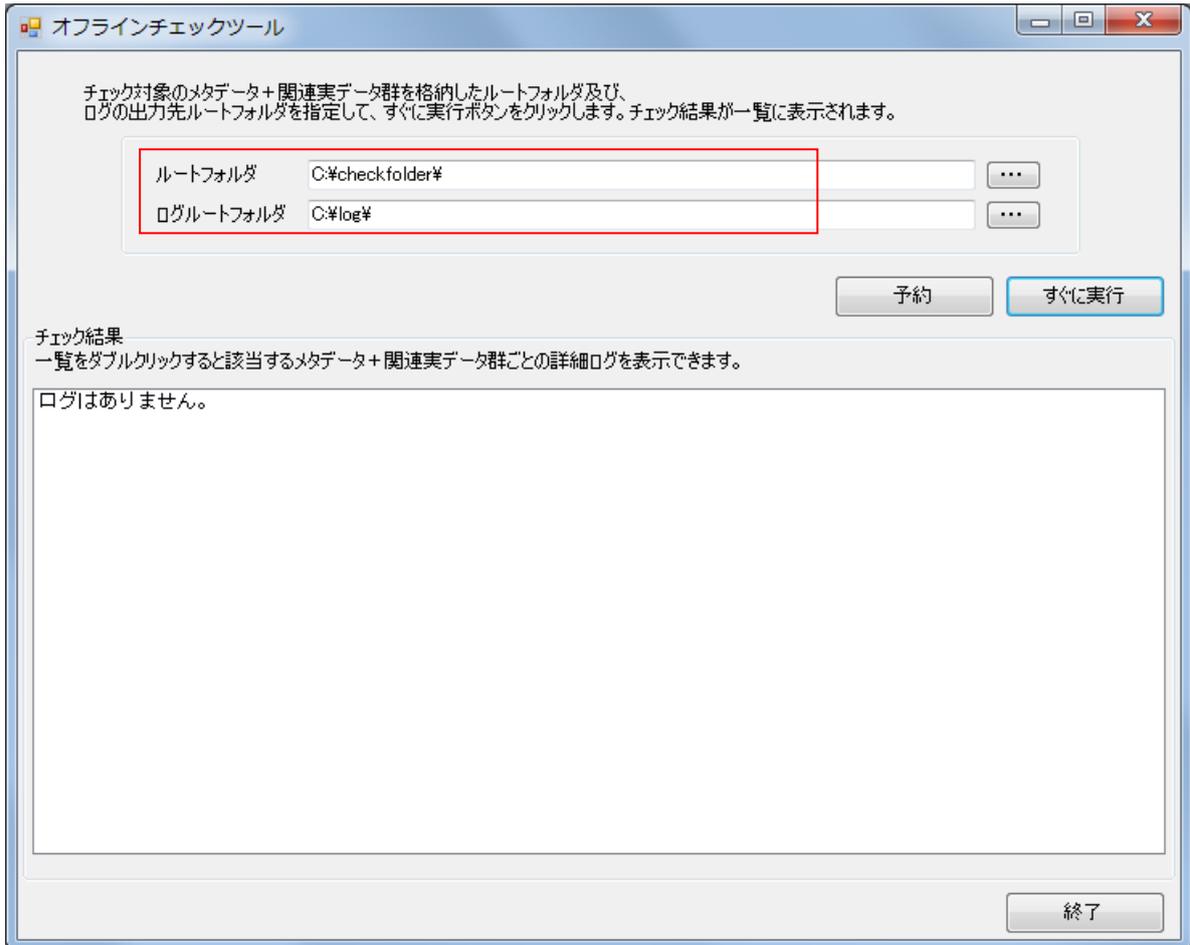
また、ユーザ ID は、メタデータファイル名の”_”より前の TK+数字 5 桁の番号となります。

複数ユーザ、複数データがある場合のフォルダ構成例



3.2. エラーチェック

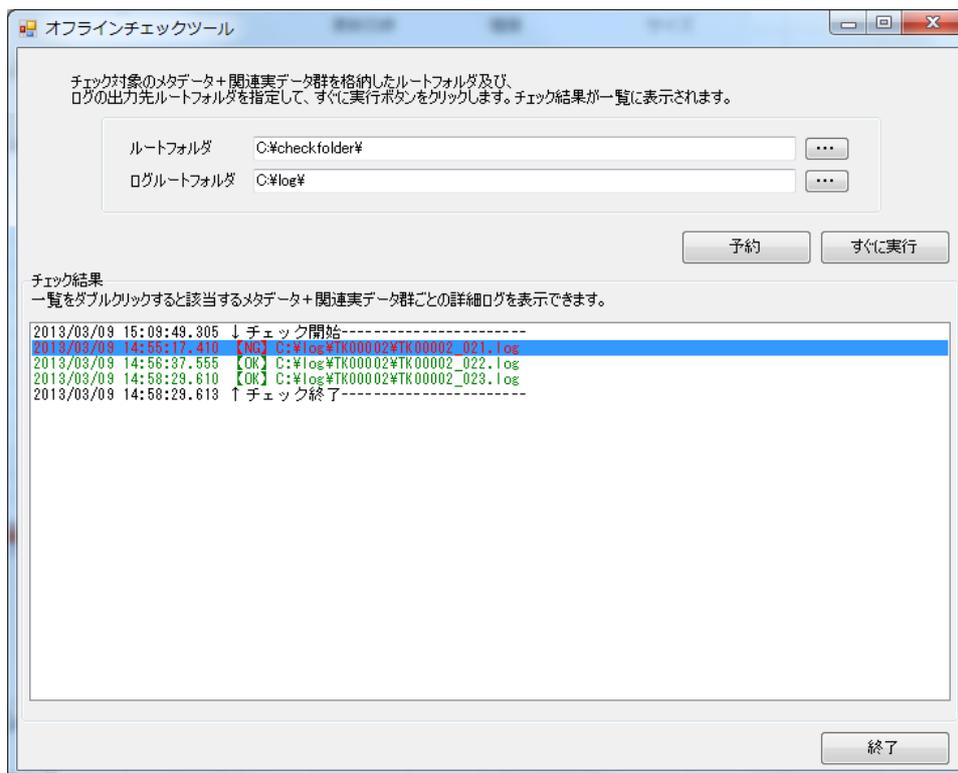
- ①メタデータと実データを 3.1. の形式に従って格納します。
- ②オフラインチェックツールを起動します。
- ③ルートフォルダとログルートフォルダを設定します。



【すぐにチェックを開始する場合】

- ④すぐに実行ボタンをクリックし、確認画面で「はい」を選択します。
- ⑤チェックが実行されます。

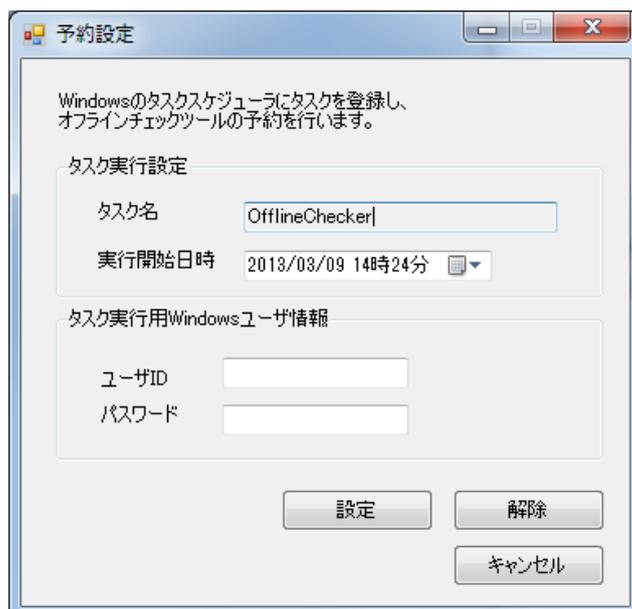
⑥チェックが完了するとメイン画面のチェック結果表示部分にチェック結果が表示されます。



【タスクを使用し、後ほどチェックを開始する場合】

④'予約ボタンをクリックします。

⑤'実行開始日時・ログインユーザ ID・パスワードを入力します。



⑥'設定ボタンをクリックし、確認画面で「はい」を選択します。

⑦'チェック結果の確認は、オフラインチェックを起動後、チェック結果表示部分を参照します。

